

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 本校の結果について

保護者・地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。  
さて、4月に6年生を対象に実施しました、全国学力・学習状況調査の本校の結果と分析についてお知らせします。この調査は、全国的な児童生徒の学力並びに学習状況を把握し、今後の学習指導に役立てることを目的として行っています。本校もそれを踏まえ、調査結果を学力向上の取組に生かしています。

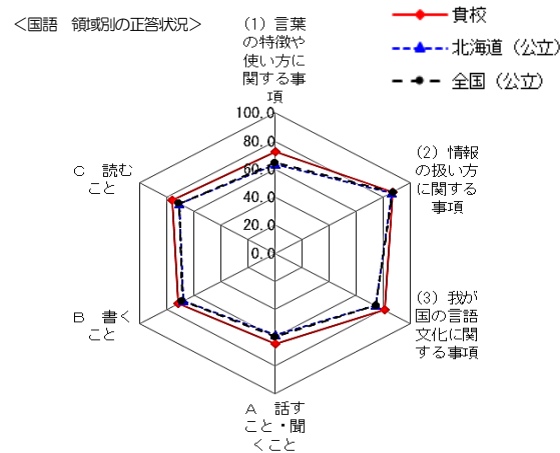
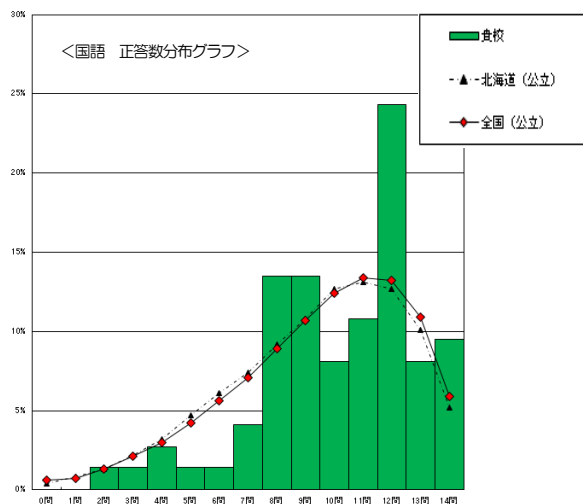
## 1. 平均正答率の結果（全国平均の比較で）

	全国平均との比較
国語	高い
算数	同程度

## 2. 教科ごとの結果・分析（全国平均の比較で）

領域	全国平均との比較
話す・聞く	やや高い
書く	やや高い
読む	高い
言語事項	相当高い

問題形式	全国との比較	無解答率
選択式	やや高い	0.1%
短答式	相当高い	4.8%
記述式	同程度	3.4%



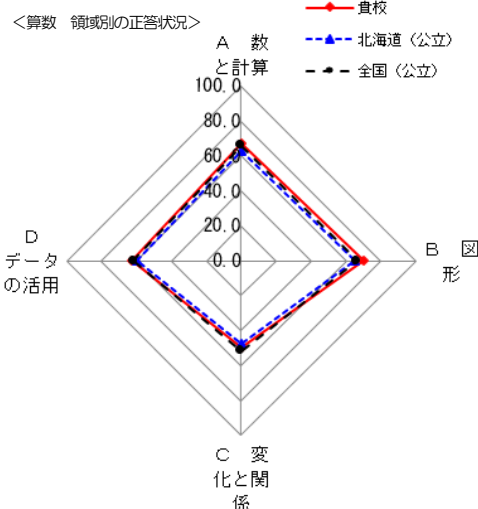
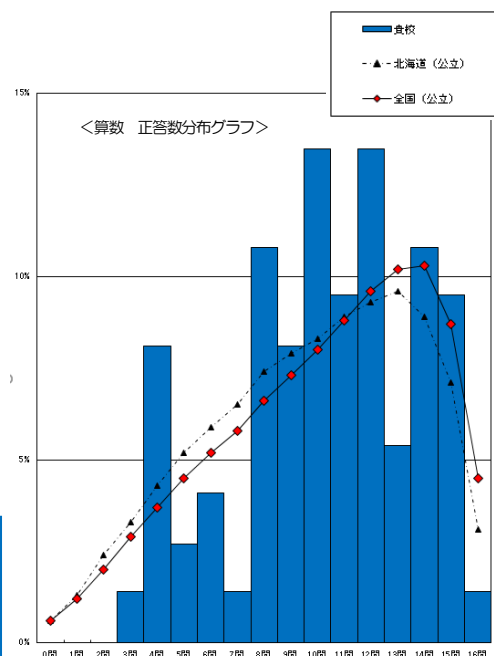
国語

- ★国語全体として・・・全国平均よりも「高い」結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・  
14問中10問以上（正答率70%以上）正答している児童は約60%。14問中4問以下（正答率30%未満）の児童は約5%。中～高位の子が多い傾向にあります。
- ★領域（「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」）別に見ると・・・
  - ・「言語事項」は全国よりも「相当高い」という結果でした。漢字に関しては全国よりも読んだり書けたりできています。
  - ・「読む」は全国よりも「高い」結果となり、「話す・聞く」「書く」は全国よりも「やや高い」結果でした。
- ★問題形式で見ると・・・「選択式」「短答式」（漢字の読み・書き）で全国を上回っています。「記述式」は全国と同様の結果ですが、若干ですが全国平均を超えています。記述して答えることに関してはまだまだ向上させていく必要があります。
- ★無解答率で見ると・・・昨年度と同様、3つの問題形式とも全国より低かったです。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。問題に対して粘り強く取り組む姿勢がついてきています。今回は「短答式」（全て漢字の問題）で無解答率が高くなりました。

算数

領域	全国平均との比較
数と計算	同程度
図形	やや高い
変化と関係	同程度
データの活用	同程度

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	同程度	0.0%
短答式	同程度	1.6%
記述式	同程度	1.7%



- ★算数全体として・・・全国と「同程度」の結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・  
16問中12問以上（正答率70%以上）正答している児童は約40%。16問中4問以下（正答率30%未満）の児童は約9%おり、国語よりも低位の子が多いです。
- ★領域（「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」）別に見ると・・・
  - ・「数と計算」「変化と関係」「データの活用」は全国と同程度でした。
  - ・「図形」は全国よりも「やや高い」結果でした。
- ★問題形式で見ると・・・  
「短答式」「選択式」「記述式」とも全国と同程度の結果となりました。本校の課題となっている「記述式」は、若干ですが全国平均よりも上回る結果でした。昨年度は全国平均以下だったので確実に伸びてきているということがわかります。
- ★無解答率で見ると・・・  
3つの問題形式とも全国よりも低かったです。「選択式」では無解答率が0%で、全員が解答することができています。算数でもあきらめずに問題に向き合い、答えを導き出すことができました。粘り強く取り組む姿勢が確実に身に付いています。

### 3. 児童質問調査の結果から

末広小学校の児童は・・・

- 自分にはよいところがあると思っている子の割合は約92%。全国平均よりも高い。
- 将来の夢や目標をもっている子が90%以上いる。
- 学校に行くのが楽しいと思っている子は、約78%。全国よりもやや低い。
- 授業中に課題解決に向けて自分で考えて自分で取り組んでいる子や学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる子の割合が80%を超えている。主体的に学び、友だちと協働的に学ぶことができています。
- ICTを活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができたり、友だちと考えを共有できたり比べたりしやすくなると答えた子の割合は高い。ICTは学習するために効果的だと考えている子が多くいる。
  - ●一方で、授業中の使用頻度は全国よりも低い。
- 平日に1日当たり2時間以上学習している子の割合は約24%。1時間未満の子が最も多く、約43%。昨年度よりも学習時間が少ない子の割合が増えており、学習時間は減少傾向にある。
- 休みの日に学習する時間は、1時間以上2時間未満が最も多く、約40%。次いで多いのが1時間未満で約34%。全くしない子も約10%いる。休みの日に関しても、学習時間が少ない子が多くおり、長時間学習する子の割合も少ない。



- ・自己有用感は依然として高い傾向にあります。今後も「わたしっていいな！きみってすごい！」を全校で進めていきます。
- ・将来の夢や目標を多くの子がもち、学習に励んでいます。自ら考えて学習できていたり、仲間と話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりすることもできています。ICT を効果的に活用しながら、これまで以上に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを推進し、学力向上を目指していきます。
- ・子どもたち一人一人が自ら課題をもち、自らの方法で学んでいく授業を展開していくことによって、学習への楽しさや充実感を感じさせ、学校が楽しいという思いを醸成していきます。
- ・家庭での学習時間は全国と比べると少ない傾向にあります。平日では1時間未満の児童が多くいます。休日になると学習する時間が少なくなるという状況です。中学校へ進学するにあたり、家庭学習に取り組む時間を確保する（目標：「学年×10+10分」）ようになると、さらに力が付いていくと考えられます。これからも家庭と連携しながら学力向上に努めていきます。

## 4. 今後の学力向上に向けて

### ○学習に向かう基本的な姿勢を育てます・無解答をゼロにします

- ・学習ルールやノート指導の一層の定着を図り、学習する意欲を喚起します。
- ・「一人一台端末」の使用頻度を高めるとともに、より効果的に活用していきます。
- ・あきらめないで問題に取り組もうとする気持ちを育てるとともに、基礎的・基本的な学力を定着させることによってあらゆる問題に対応できる力を育てます。

### ○書く力を高めていきます

- ・授業中は、自分の考えを表現したり、まとめの文章を書いたり、学習の振り返りを書いたりするなど、文章として表現する活動を大事にしていきます。
- ・水曜日のSタイムでは、引き続き全校一斉に「視写」に取り組みます。

### ○「ICT」や「対話」を取り入れた、「子ども主体」の授業を進めていきます

- ・友だちと話し合ったり考えを共有したりする「対話」を取り入れた学習を積極的に行うことで、子どもたちがお互いに高め合えるようにしていきます。
- ・対話を効果的に行ったり、一人一人が自分なりに課題解決をしていったりするためにICT 機器を積極的に活用していきます。
- ・子どもたちがICT を活用しながら、調べたり、まとめたり、対話したりする時間を十分に確保した「子ども主体」の授業づくりを進めていきます。

### ○算数における基礎的・基本的な学力の定着を図ります

- ・算数の授業では、習熟の時間を充実させることで、繰り返し学習させます。
- ・日常生活の場面に置き換えたり、式や言葉で書き表したり、説明したりするような学習を進めます。

### ○家庭との連携を大切にします

- ・家庭と連携し、規則正しい生活習慣づくりに努めます。
- ・家庭学習の充実を図る取り組みを行います。～家庭学習の表彰・「パワーアップウィーク」の取り組み
- ・定期的に学力向上通信「パワーアップ」を発行し、家庭と学校との連携を図ります。

# 5. 正答率が低かった問題と解答の状況

【国語】

1

- (2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 相手が興味をもっていていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
  - 2 相手が興味をもっていていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
  - 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
  - 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

「資料を活用するなどして、自分の考えが伝えるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題です。  
 2が正答ですが、和田さんが、自分の体験を加えて話していることを捉えることはできているが、相手が興味をもっていていることに気付いたことを捉えることができていない誤答（4と解答している）が多くありました。他者と話し合う活動を通して、自分の考えが伝わるように相手や目的を意識して工夫するという経験を積んでいく必要があります。  
 この問題の正答率は約57%でした。全国の正答率と比べると約4%高い結果でした。

2

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題です。  
 正答率は、約57%でした。  
 誤答としては、「競」の字もしくは「技」の字を書けていない子もいましたが、両方とも書けていない子の割合が高かったです。無解答率も約7%で、全て問題の中で最も高かったです。日頃から漢字を正しく書けるように繰り返し練習していくとともに、文章の中で漢字を正しく使うという意識ももたせていく必要があります。  
 全国の正答率と比べると、約13%高く、本校児童は比較的よく書けているということが言えます。

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた部ア、イを漢字で正しいに書きましよう。

漢字に書き直すことにしました。次の

部ア、イを漢字で正しいに書きましよう。

【高山さんの文章】

みんな仲良く「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人も仲良くります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対決で行います。上級生が下級生に花巻の仕方を教えたり、下級生も楽しむように、きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなであそびをしよう」という2年生や、「下級生といっしょに花巻して熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しむように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、くふうするようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊」について  
 6年生がくふうしていること  
 ○遊びたいことを下級生に聞く  
 ○ルールをくふうする  
 ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる  
 下級生に聞いたこと  
 ○1年生 お父さんやお母さんと遊べて楽しかった  
 ○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた  
 ○4年生 みんなが楽しそうであそびました

「目的や意図に依じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題です。  
 正答率は約55%で、全国よりも約1%低い結果でした。国語の問題の中で一番正答率が低かったです。  
 条件の「【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと」は満たしているが、「たてわり遊びのよさについて考えたことを書くこと」は満たしていない解答が多くありました。複数の条件を満たして記述する力はまだ不十分であることがわかります。自分の考えが伝わる文章の書き方を学習していく必要があります。

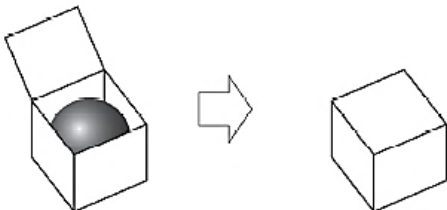
【算 数】

3

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm<sup>3</sup> かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

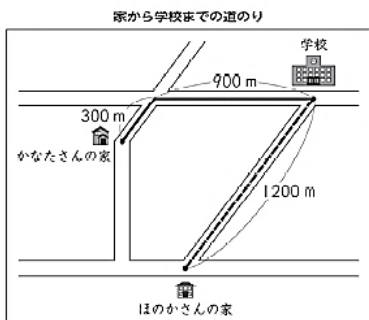
「球の直径の長さで立方体の一辺の長さを捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題です。

正答は  $22 \times 22 \times 22$  (縦×横×高さ) ですが、3.14 を用いた式を回答している誤答と  $22 \times 22$  という誤答が多かったです。球の形をしているために、関係していそうな円周率を使ったと考えられます。立方体の体積の公式が理解できていないことがわかります。基礎的・基本的な学習内容を定着させるとともに、学習したことを日常的な事象と関連付けて考えるという学習が必要だといえることが言えます。

正答率は、約 34% でした。全国よりも 3% ほど低い結果でした。

4

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。家から学校まで、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間かかりました。それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

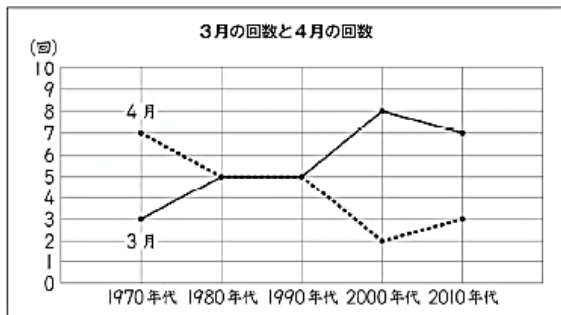
「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題です。

かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことは書くことができているが、かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間より短いことを書き表すことができていない誤答が多くありました。答えを導き出すために、順を追って正しく説明することができていないことがわかります。日常の授業の中では、ただ単に答えを出すのではなく、答えを導き出すための手順やその答えになったわけを表現する学習が必要だといえます。

この問題の正答率は約 19% で、全ての問題の中で最も低く、全国よりも約 12% 低い結果となりました。

5

(3) こうたさんは、1970 年代から 2010 年代について、C 市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970 年代以降は、開花日の月が 3 月と 4 月のどちらかであることがわかりました。そこで、開花日の月について、各年代の 3 月の回数と 4 月の回数を、下のよう折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970 年代は、3 月の回数より 4 月の回数のほうが 4 回多いですね。



3 月の回数と 4 月の回数が同じ年代がありますね。



3 月の回数と 4 月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3 月の回数と 4 月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3 月の回数と 4 月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3 月の回数と 4 月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。